

第 487 回 例 会

24年1月27日

本日のプログラム

- ・ソング 「われら日本ロータリアンの歌」
- ・卓話 近藤 嘉一 会員
「研究開発のお話し Part 10」
～創造的研究開発を成し遂げる技術者の能力、資質～
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 3階「飛鳥の間」

次回(2月3日)のプログラム

- ・ソング 「奉仕の理想」
- ・卓話 久保田 秀一 会員
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「カーデナルーム」

2月の例会予定

- ◎3日 卓話 久保田会員
- ◎17日 卓話 森本会員
- ◎10日 卓話 榎本会員
- ◎24日 卓話 クラブフォーラム(国際奉仕委員会)

先週(1月20日)の例会報告

■会長の時間

皆様こんにちは。早いもので松の内を過ぎ あわただしく毎日が過ぎてゆきます。今日は辰野様重田様ようこそおいで下さいました。さて私事です1週お休みの間に誕生日を迎え還暦という記念すべき日を家族や友人などに祝って戴きました。確かに芭蕉は月日は百代の過客と歌いましたがその下敷きには 唐の李白の詩があります。百代の過客とは自然は何代にもわたってその姿をとどめているが人間はその命ははかなく生死の繰り返しでこの世にいる時間は本当に短いものだという意味です。私達はたくさんの自然の恩恵を受けています。日本は四季があり美しい景色風景に恵まれ 田畑から海から山から美味しい食べ物に恵まれ幸せをたくさん享受しています。都会にいますとその様な幸せは当たり前であって皆仕事に追われ時間に追われお金に追われ、あくせくとその日その日を懸命に生きていることが人生のすべてのように思われがちです。原発の事故の後 しばらく節電であるとか質素な暮らしをとエコとかを心掛けました。津波で亡くなった方の事を思うと贅沢はひかえてとか国民一人一人が思いやりを問われました。この国は熱しやすく冷めやすい国民性なのか少しずつ元に戻りつつあるように思います。今年に入り不況だとか税金の値上げとか領空領海侵犯の話題などが出てくると去年の大きな天災があった復興にむけて 私達国民が何を考えないといけないのかどのような行動が問われているのか考えさせられます。この世に生を受け命を戴き 自己中心の経済性を追う人生だけではなく他のひとや社会に尽くす事の出来る心の豊かさを持ち続けられたらと心から願います。津波で跡形も残さずもぎ取られた町や家々や人々。嘆きや悲しみや苦しみの上に歴史は刻まれます。人の一生とはこのような御苦労の上に成り立っているのかと思うと 今日一日を真剣に生きよう、一つでも良い事を、一つでも笑顔を、一つでも思いやりの言葉を と願います。

道元禅師はおっしゃられています。すりこぎのように他に尽くしなさいと。奉仕の心とは人格磨きなのですね。短い人生だからこそ一隅を照らせる人に成りたいです。一隅を照らす人は国の宝なり。今日も精進感謝。有り難うございました。

【来客紹介】 3名

【出席報告】

24年1月20日(第486回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
28名	2名	18名	8名	69.23%

【幹事報告】

〔メールBOXに配布〕

1)第7回理事会報告

2)「東北へメイクアップに行こう」実施のお知らせ

〔回覧資料〕

1)血液センターニュース(2012冬)

2)日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会のご案内

3)大阪交通災害遺族会「パンジーだより」

4)他クラブより例会変更のお知らせ(豊中南RC・北梅田RC)

ニコニコ箱(1月20日)

金 允完 =東さんにご招待されて参加させていただきました。 よろしくお祈りします。

秋山 千尋 =先日の新年講演会で、本年は一層 勝ち組と負け組との差が大きな落差となる年と話されていました。

さて当社はどうなる事やら。

福島 三雄 =今日は大屋さん、小林さん、ありがとうございます。

川上 大雄 =東北へメイクアップに行きましょう！

河田 英子 =ちょっと嬉しいことがありました。今日、学園のNew Year Concert でした。朝、雨の中並んでおられる熱心な保護者

の熱い視線の中、挨拶をしました。 たくさんのピンクハートがとびました。

菊 泰仁 =来週いっぱい出張ですので、次回例会欠席で失礼いたします。

森本 良嗣 =久し振りに受付に座りました。

玉置 栄一 =今日からバッチを付けてきました。

和氣 勝海 =明けましておめでとうございます。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 10000円	今年度合計 2912840円
---------	-------	------------	----------------

卓話(1月20日)

「捨聖 一遍上人について」 小林 知義 会員

一遍上人(幼少名は松寿丸という)が生まれたのは、1239年、今の愛媛県、伊予の松山、道後温泉の近くで生まれています。先祖は河野水軍の末裔で、三島大明神の氏子代表、豪族の家系なのですが、源義経に近く、最終的には、頼朝の鎌倉幕府に睨まれて、攻められ、父(通広)も子も出家させられる運命となりました。出家してしばらく修行に励んでいたのだが、一族の有力者や、父が死んだ後、後継者も見当たらず、一族から呼び戻されて河野家の家督を継ぐのですが、近隣の豪族との争いや一族内部の争いに嫌気がさして、最終的には、今度は自分の意思で、二度目の出家をしたようです。故郷の近く、菅生の岩屋の仙人堂で苦行に明け暮れた後、35歳になって、何があったのは定かではないのですが、突然、思い立ち、布教の旅を始めます。自分の悟りが、真実かどうかを確かめるために、地位や名誉、持っているものすべてを捨てて旅立つわけです。

西行法師や芭蕉に負けなぐらい全国を、念仏行脚(南無阿弥陀仏を唱えながら、念仏札を渡す旅)するのですが、その中で有名なエピソードを二つばかり紹介します。

1. 熊野権化のお告げ

当時、聖域だった熊野に詣でている途中で、ある修験者達の一団と出会った。いつものように布教活動で、南無阿弥陀仏と書かれた木札を渡そうとすると、修験者達が受け取れないと拒んだ。そこで、一遍は「一念の信をおこして、この札を受け給うべし」と問うた。修験者は「いま、一念の信心の心、侍(はべ)らず、受けば妄語なるべし」と答え、受け取る事を拒みました。一遍上人は「仏教を信じる心おはしまさずや、などかうけ給わざりけり」と駄目をおした。修験者は「経教を疑わずといえども、信心のおこらざる事は、力及ばざる事なり」と答えた。一遍上人はそれを聞いて、悩みに悩んだ。その夜、うとうとしていると、熊野権化が姿を現して、「融通念仏すむる聖、いかに念仏をば、悪しく推めらるるぞ、御房の薦めによりて、一切衆生はじめて往生すべきにあらず。阿弥陀仏の十劫正覚(じゅうごうしょうがく)に、一切衆生の往生は南無阿弥陀仏と決定するところなり。信不信を選ばず、浄不浄を嫌わず、その札をくばるべし。」と告げた。一遍上人はこのお告げを聞き、自分の信心に確信が持てたようだ。

2. 紀州の法燈国師との禅問答

一遍上人が法燈国師のところまで参禅して、念仏の極意を問われ、「念仏の究極の姿を私は悟りました。」と言って、歌を詠みました。「となふれば 仏もわれも なかりけり 南無阿弥陀仏の 声ばかりして」これが究極の念仏だと心境を披露したところ、法燈国師から「喝」と言われ、「未徹在」だと退けられた。もう、一度、一遍上人は思索を積み、再び相見したときに、こう詠み替えました。「となふれば 仏もわれもなかりけり 南無阿弥陀仏 なむあみだ仏」法燈国師が「喝」と言った理由は、声ばかりしてと詠ったら、その声を聞いている自我、意識している自意識がまだ残っている。その意識さえ、捨てないと本当の悟りは開けないという指摘に、即座に反応して、一遍は「南無阿弥陀仏なむあみだ仏」と次の歌を詠んだという事である。ただ、「南無阿弥陀仏」の6文字の念仏を唱え続けられ、浄土にいけるという強い信念の元で、遊行は15年間続けられ、一遍は死ぬ間際まで、一度も郷里に帰ることはなかったと伝えられています。ただ、旅の終盤は、信者も増えて、見るからに楽しそうな遊行だったようで、太鼓に合わせて、念仏を歌いながら踊り狂うというスタイルだったようです。

また、日本文化の発祥は室町時代に遡ると言われているのですが、能や狂言、茶道や華道、歌舞伎も含め、多くの文化芸能の発祥の源に、一遍上人の踊り念仏と、捨てるという美学が影響した事は紛れもない事実だと思われまます。

そして、一遍の最終の遊行は兵庫県で行なわれました。遺骨は、本人が海に流すか、野に捨てて、獣に食わしてくれ、と遺言したにも関わらず、在家信者達によって、兵庫県の真光寺に墓が建立され、今も祀られています。

最後に、捨聖、遊行上人の真骨頂の歌を紹介して、私の卓話の時間を終わりにしたいと思います。

「身を捨つる 捨つる心を捨てつれば、思ひなき世に 墨染めの袖」

大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか